

「石見の夜神楽 益田公演」20周年記念事業

高千穂公演

石見 神楽

MASUDA SHIMANE
**IWAMI
KAGURA**

島根県伝統芸能

上演演目

ちがえし
道返し

あまのいわと
天岩戸

えびす
恵比須

おろち
大蛇

令和8年
12月6日

開場12:00 開演12:30

【開催場所】

高千穂神社 神楽殿

主催 (一社)益田市観光協会、益田市石見神楽公演事業実行委員会

共催 (一社)高千穂町観光協会

後援 高千穂町、島根県益田市

協力 益田市石見神楽神和会、(公社)島根県観光連盟

お問合せ (一社)高千穂町観光協会 TEL 0982-73-1213

(一社)益田市観光協会 TEL 0856-22-7120

益田市観光
ガイド▶



(一社)高千穂町観光協会
WEBサイト▶



【入場料】

一般 2,000円 中学生以下 700円

※未就学児は膝上鑑賞の場合は無料

※全席自由・税込

※前売券完売の場合、当日券の販売はございません。

【チケット発売日】 令和8年10月15日(木)

【チケット販売方法】 (一社)高千穂町観光協会WEBサイト

※WEBサイトでの申し込みが出来ない方はお問合せお電話でお申込み下さい。

石見神楽

「神楽」とは、日本の神事において神に奉納するために舞われていたもので、起源は日本神話の中の「天の岩戸伝説」にまでさかのぼるとも言われています。その由来は古く、平安時代末期から室町時代に島根県石見地域で、農耕神的なものとして村々に祀られる集落の神「大元神」を信仰した田楽系の行事が原型と言われています。

明治の法律改正により、その土地の人々が神楽を演舞するようになると、リズムは旧来型の六調子の他に、活発な石見人の気性そのままに勇壮な八調子とよばれるテンポになるなど改革も活発化し、現在は古事記日本書紀を原典とするものなどの演目は30数種類にのぼり、スケールも大きくなっています。「神事」でありながらもエンターテインメント性が高く、ストーリーも明解。舞もお囃子も激しく、胸のすくような爽快さと勇壮さがあり、観ているだけで楽しめるのが特徴で、地元住民に愛され続け、県外・海外公演でも好評を博しています。

令和元年5月20日に「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」として日本遺産に登録されました。益田市では5月20日を「石見神楽の日」と定め、その前後1週間を「石見神楽WEEK」として、「子ども見守り活動」や「石見神楽ウォーク」など様々な活動を行っています。

益田市石見神楽神和会



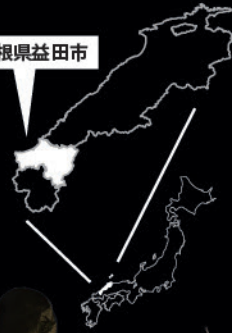
ますだしいわみかぐらしんわかい

益田市石見神楽神和会は、昭和57年に「益田市石見神楽互助会」として市町村合併前の益田市9団体によって設立されました。子ども神楽団の育成や益田地域の伝統文化を伝承するため、地域の秋季例大祭や市内外での公演を行い、神楽の里づくりに努めてきました。

平成4年に会の名称を「益田市石見神楽神和会」と改め、現在では益田市内11団体が構成し、益田市を代表する伝統文化である「石見神楽」の保存伝承・発展に努めています。

近年は国内だけでなく海外公演も成功させ、世界に向け石見神楽のPR活動を行っています。

島根県益田市



道返し

常陸の国に住む武甕槌命は、世界を股にかけて荒れ狂う大悪鬼を迎え討ち降参させ、九州・高千穂に追放し農業の振興を計らせ、後に食物の神として祭られました。石見神楽では珍しく鬼を退治せずに改心させることから、道の途中で返すという意味で、「鬼返し」とも言われます。観客席から鬼が現れる場合もあり、神様と鬼が遭遇するシーンでの言葉の掛け合いが特徴です。金糸銀糸で作られた豪華絢爛な衣装は重量感があり、また、演舞の途中で変化する衣装を見逃さないように御覧ください。



この演目は石見神楽の中で最も神聖視されている演目で、日神天照大御神の岩戸隠れの神話を神楽化したものです。

天照大御神の弟神：須佐之男命の天上における悪業を悲しまれた天照大御神はついに岩戸の中へお隠れになられました。すると世の中は光を失い常闇となり、様々な災いが起こるようになりました。このことを心配した天児屋根命と天太玉命は天安河原に八百万の神々を集めて相談し、岩戸の前で祝詞を奏し、長鳴鳥を鳴かせ、天宇津女命が舞踊しました。すると常闇の岩戸の外が賑やかな事を不思議に思った天照大御神が、岩戸を少し開けて外の様子を覗かれたところを力持ちの神：天手力男命が岩戸を開かれ、天照大御神を迎え出したので、再び世の中が明るくなりました。

そして須佐之男命は八百万の神々により高天原を追いやられました。

天岩戸



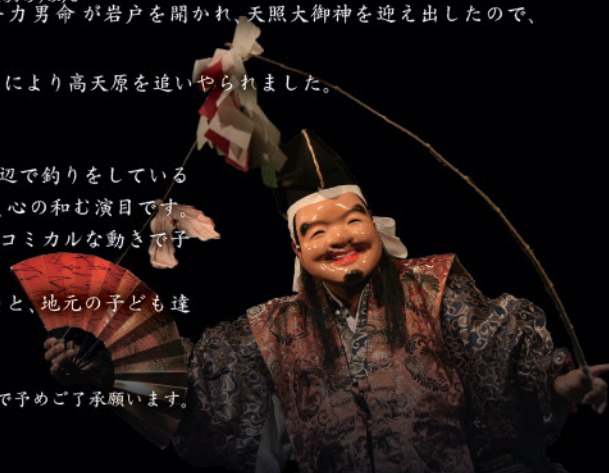
恵比須

この神楽は、出雲の国・美保神社の御祭神、恵比須様(事代主命)が磯辺で釣りをしている御姿を舞うものです。にこやかに鯛を釣る恵比須様の様子が面白おかしく、心の和む演目です。恵比須様は昔から漁業、商業の神様として崇拝されています。舞の中でのコミカルな動きで子ども達にも大人気です。

恵比須様が大鯛をおびき寄せるために撒き撒き餌(お菓子)をもらおうと、地元の子も達は演目「恵比須」が始まると舞台付近に集まって来ます。

今回も気合いを入れて撒き餌を撒きます。乞うご期待ください。

※撒き餌は皆様全員には行き渡りませんので予めご了承ください。



大蛇



高天原を追われた須佐之男命が出雲の国・斐伊川(斐伊川)にさしかかると、嘆き悲しむ老夫婦と稲田姫に出会います。理由を尋ねると、「大蛇が毎年現れ既に7人の娘が攫われ、残ったこの稲田姫もやがて大蛇に攫われてしまう」との事でした。

一計を案じた須佐之男命は、種々の木の実で醸した毒酒を大蛇に飲ませ、酔ったところを退治します。その時、大蛇の尾から出た剣を「天叢雲剣」と名付け、天照大御神に捧げ、稲田姫と結ばれます。

古代神話の英雄・須佐之男命の八岐大蛇退治を伝えるもので、ダイナミックでスケールの大きいこの演目は、国内はもとより世界各国で賞賛され好評を得ており、石見神楽を代表する演目の一つです。

「八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重垣つくる その八重垣を」

この和歌は須佐之男命が詠んだ日本最古の和歌と云われています。

石見神楽ガイド

